

### 〔1〕 地域交流拠点（テクノ区域）をつくり高める

- ～ 商業施設等の進出を促し、賑わいを創出する ～
- ～ テクノ区域の公益施設用地を有効活用する ～

#### ■ 地域の現状

##### 【少ない賑わいの場】

- ・ 清原、芳賀工業団地や作新学院大学や高校等があることから、就労者や学生などの交流人口も多い地域であるにもかかわらず、商業施設や集いの場が極めて少ない。

##### 【進むテクノのまちづくり】

- ・ テクノ区域の整備に伴い、住宅や商業施設などが次々と建てられ、市街地が形成されていくにつれ、地域コミュニティの自治会も組織され、地域交流拠点のまちづくりは進んでいる。



開発が進むテクノ区域

#### ■ 地域が抱えている課題

##### 【テクノ区域内公益施設用地の活用】

- ・ テクノ区域計画では、定住人口13,000人を想定しており、この計画人口が達成されると児童数の増加が見込まれ、現在の学区である清原中央小学校までは、通学距離が長く幹線道路も横断することになることから、公益施設用地を有効に活用する必要がある

### 基本的な考え方

- ・ 地域交流拠点の「賑わい」をつくりあげていくため、集客性の高い施設を呼び込んでいけるよう、清原地区やテクノ区域の状況や魅力を多方面へ発信していく。
- ・ テクノ区域において、住宅建設が順調に進み、良好な市街地が形成されるよう、公益施設用地の利用について、多くの住民が関心を持ち理解するとともに、その活用方法について関係機関と意見交換をしていく。

#### ■ 私たちの今後の取り組み

##### 【公益施設用地の有効利用についての周知と対話】

- ・ 公益施設用地の利用については、地元の住民や自治会などから小学校建設の要望がある中、学校新設はテクノ区域の人口増加を促進させる活用方法にもなると考えられることから、学校用地を生み出すために協力を得た地権者の意向や今後のテクノ区域の開発動向と児童生徒の増加予測を踏まえながら、広く地区住民に周知するとともに、要望活動などによって市との対話の機会を設ける。

##### 【商業施設の進出を促すPRの実施】

- ・ 宇都宮市の東部の拠点にふさわしい「賑わい」をつくるため、清原地区の魅力やテクノ区域の立地条件の良さを幅広くPR(PRビデオ)する。また、PRにおいては、清原地区以外の団体や行政の協力も得ながら進めていく。

#### ■ 全体で取り組むこと

##### 【地域交流拠点として必要な機能を高める】

- ・ 清原地区は、市東部の地域交流拠点であり、市の重要な産業拠点でもあることから、居住機能や商業機能を拡充し、生産・研究開発機能を維持・発展させるためにも、公共交通機能などの向上を併せて取り組む総合的・複合的なまちづくりを展開する。
- ・ 新交通システムの導入を進めることを基本にしつつ、導入にあたっての課題の解決や実現までには、一定の期間を要することから、交通基盤の強化をする他の方法についても併せて検討を進める。



## 【2】 交通基盤・機能を強化・活用する

- ～ 朝夕の通勤通学による交通の混雑を解消する ～
- ～ 交通網を整備する（新交通システムの導入と地域内交通の拡充）～

### ■ 地域の現状

#### 【慢性的な交通渋滞】

- ・ 鬼怒川西部地区から清原・芳賀工業団地などへ通勤する車両により、朝夕の交通渋滞が慢性化している。また、渋滞は生活道路や通学路にも及び、地域生活に支障をきたしている。

#### 【脆弱な地域の公共交通】

- ・ 地区の面積が広い中、幹線道路が整備されているものの、基幹となる公共交通が不十分な状況にある。具体的には、自宅から目的地への移動にあたり、自動車を運転できる人々は不自由がないものの、年少者や高齢者などの自動車以外の交通手段がない人々には不便な地域となっている。

#### 【新交通システムの導入】

- ・ 新交通システムの導入が予定されているものの、導入される時期が不透明である。また、導入にあたっては、停留所周辺に広場や駐車場が必要になる。

### ■ これまでの地域の取り組み

#### 【地域内交通の導入】

- ・ 地区内の公共交通の利用を促進し、将来的には新交通システムの機能を補完することを視野に入れ、本格的に訪れる超高齢社会へ対応し、自家用車を持たなくても地区内の主要な場所へ移動できる手段として地域内交通を導入した。



### ■ 地域が抱えている課題

#### 【多くの人を安全・正確に搬送できる交通手段の導入が必要】

- ・ 地区の住民や団体の取組では解消できない交通渋滞は、住民生活に影響を及ぼし、企業活動においても大きな問題であることから、その解決には効率的で多くの人々が移動可能な交通手段の導入が必須といえる。
- ・ 住民の足として地域内交通を導入したが、高齢者中心の利用となっており、その運営も厳しい状況にあることから、利用者及び利用層の拡大や利便性の向上のためにも、基幹交通の拡充やこれとの接続が必要となっている。



#### 基本的な考え方

- ・ 人にやさしく環境との調和を図りながら交通渋滞の解消を目指し、あらゆる人々が快適に清原を訪れ、また、他地区へ行くことができ、地区内を自由に回遊できるよう、公共交通網の整備を目指す。

### ■ 私たちの今後の取り組み

#### 【新交通システム導入の気運を高める】

- ・ 新交通システムの導入に向けて、清原工業団地、芳賀工業団地の各企業、大学・高校、地域、住民などへ働きかけを行い、導入にあたっての課題について関係機関と十分に協議を重ね、多くの人々の理解を得ながら地域の気運を高めていく。

- ・ 地域内交通の拡充に向けて、主要道路のバス路線等への接続を考えた広域的ルートの検討等を行い、高齢者などの交通弱者への対応や利用者の拡大策を進める。



■ 全体で取り組むこと

【既存交通基盤の強化を図る】

- ・ 交通基盤を強化することについては、新交通システムの導入を進めることを基本にしつつ、道路整備などについても併せて検討する。また、新交通システムの導入にあたっては、課題の解決や実現までには一定の期間を要することから、公共交通の利用促進を図るため、バス事業者等との連携を図りながら、JR宇都宮駅東口から清原地区内への直通バスを増便させるなどの方法についても検討を進める。



〔3〕 プロスポーツチームが活動しやすい環境をつくる

～ プロスポーツチームの活動支援 ～

■ 地域の現状

【様々なスポーツ施設が立地】

- ・ 地区内にはサッカー場や野球場などのスポーツ施設が数多くあり、プロチームの公式戦から市民の気軽なスポーツ活動に至るまで、幅広く利用されており、多くの観戦者が訪れる。

【交通アクセスが問題】

- ・ 地区内で開催されるプロスポーツゲームに市内外から多くの人々が訪れるものの、公共交通の利便性は悪く、観戦者に対する常設の駐車場も不足している。しかしながら、駐車スペースの確保やスポーツ施設の周辺住民への影響（照明や騒音問題など）を最小限にできる環境を持つ地域は市内に見当たらない。

【地域とプロスポーツチームとの交流】

- ・ 自治会等の地域が開催するイベントにプロスポーツチームの選手やマスコットの参加・出演があり、イベントが盛況となっている。また、チームからゲーム観戦の招待があり、住民とチームのふれあいが進んでいる。



© 「TOCHIGI SC」

清原地区内に活動拠点等があるプロスポーツチーム

- ・ 栃木県グリーンスタジアム ⇒ 栃木SC(ホームグラウンド) : J2リーグ戦
- ・ 清原体育館 ⇒ リンク栃木ブレックス : JBL戦
- ・ 清原球場 ⇒ プロ野球 : 公式戦
- ・ 道場宿緑地 ⇒ 宇都宮ブリッツェン : クリテリウム